

目指す学校像	笑顔があふれる学校 きれいな学校 安全な学校 信頼される学校
--------	--------------------------------

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

重点目標	1 「できた」「わかった」喜びを味わえる授業実践と地域の教育資源を生かした教育の推進 2 安全・安心な学校づくりに向け、豊かな心と健やかな体の育成と設備・施設の適切な管理 3 学校運営協議会と協働し、地域・保護者と一体となった学校運営の推進 4 教職員一人ひとりの業務遂行能力向上を図る研修と環境の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和7年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○令和5年度全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均とほぼ同様の結果である。 ○さいたま市学習状況調査の生活習慣に関する調査の質問「国語の授業内容はよく分かりますか。」で肯定的な回答の割合が市よりも下回っている。 ○日頃の学習の様子を見ると、基礎的・基本的な事項が身につけていない児童が多い。 (課題) ○さいたま市学習状況調査の結果分析より、国語は「話す・聞く」「書く」力、記述により自分の考えを表現する力、算数は基礎基本の中で「数と計算」の力の向上が必要である。 ○国語や算数において、基礎的・基本的事項を確実に身に付けていくことが課題である。	「できた」「わかった」喜びを味わえる授業実践 地域の教育資源を生かした教育の推進	①スタディサプリ、ドリルパークの活用や朝学習も充実により、個別最適な学習スタイルを進め、学力向上、習熟へとつなげる。 ②家庭学習の行い方を定着させ、発達段階に応じ、自分で学習する習慣を身に付けさせる。 ③校務用端末を活用し担任が個々の成績データベース、スクールダッシュボード等を活用することで具体的な学力改善策を個人面談等で保護者に情報提供する。 ④タブレット端末の使用を推進し、プレゼンテーション資料を作成・活用した授業を実践したり、プログラミング的思考力を育む STEAMS TIME で体験活動を行ったりする。 ⑤算数の授業を中心に教員を複数配置し、少人数指導または個別指導を実施する。	①スタディサプリ、ドリルパークを授業や家庭学習で活用できたか。 ②家庭学習を各学年で定着することができたか。 ③校務用端末で児童の成績管理を適切に行い、個人面談や通知表等で課題や具体的な方策を伝えることができたか。 ④年間に1回以上、タブレット端末を使った授業(児童が発表方法で使用する)を公開したか。 ⑤算数科における少人数指導、チームティーチングを実施し、知識・技能に関する正答率を70%以上とする。	①学校評価(保護者)「学校では～体験したりする授業を行っている」項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。				
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査の結果の生活習慣に関する調査の「人が困っているときは進んで助けている」や「学校に行くのは楽しい」で平均を大きく上回っている。 ○昨年度の保護者による学校評価で「学校は児童の事故防止に努め、施設・設備の安全に配慮している」「児童が落ち着いて学習・生活できる環境整備がなされている」で肯定的な回答が、88%であった。 (課題) ○今年度は特別支援学級が設置されていないが、特別な配慮を要する児童は多数いるので、さらなる個別支援・個に応じた指導が必要である。 ○施設・設備の老朽化が進んでいるため、計画的な修繕・保守が必要である。	豊かな心と健やかな体の育成 適切な設備・施設の管理	①生徒指導・教育相談部会で情報を共有し、個別の対応方法を共通理解し、配慮を要する児童へ適切に対応する。また、保護者への対応も同時に行うために「すこやか相談・教育相談」を毎月実施する。また、個人面談を春と秋の2回実施に変更する。 ②「心を潤す4つの言葉・心を元気にする4つの言葉」を意識させ、規律ある態度を育成する。 ③縦割り活動を集会以外にも清掃等様々な場面で機能させ、児童同士の深いかかわりを構築する。 ④食育を推進し、地元食材を使った給食(シェフ給食)の提供をする。	①学校評価(保護者)「学校では、児童の悩みやトラブル等に適切に対応している」項目で肯定的な回答の割合が88%以上であったか。 ②学校評価(児童)「進んであいさつをしている」項目の肯定的な回答の割合が90%以上であったか。 ③学校評価(児童)「友達を思いやり仲良く助け合っている」項目の肯定的な回答の割合が90%以上であったか。 ④給食回数の1/3で地元食材を提供できたか。	①学校評価(保護者)「学校では～施設・設備の安全に配慮している」項目の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。				
3	(現状) ○学校運営協議会において、本校の重点指導項目(あいさつの励行、規範意識の醸成等)を共有し、本年度の学校経営方針に取り入れた。 (課題) ○学校運営協議会で共有した指導項目を地域・家庭等に周知したため、今後はさらなる共通理解を深め、協働できるよう取り組んでいく。 ○地域の意見に偏ってしまうことのないよう、学校運営協議会に保護者代表や同じ中学校区の校長を委員に入れ、意見を取り入れる。 ○学校運営協議会の熟議の進行の仕方を工夫し、より闊達な意見交換ができるようにする。	重点指導項目の周知と継続的な教育活動の推進	①委員を再考し、運営協議会を年3回開催し、熟議を元に協働活動を行う。 第1回 地域で育てたい力等について 第2回 育てたい力の実現に向けた方策について 第3回 基本方針の確認と次年度の学校経営方針案の仮承認 ②学校だより等をHPやスクリーンへの配信により確実な情報共有を行い、行事を直接公開することや動画や写真などで公開することで積極的な情報発信をする。情報共有や情報発信は学校安心メールやHP、スクリーン、teams、forms等を効果的に活用する。	①学校運営協議会を年3回実施し、委員とともに学校運営について十分な協議ができたか、また協働に向けた取組が行えたか。 ②学校評価(保護者)「各種たよりやホームページ、学校安心メール等で積極的に情報を提供している」項目の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。					
4	(現状) ○教職員一人ひとりがICTを研修、活用し業務を効率化、時間短縮化ができるようになってきた。 ○日課や学校行事の見直しを行ってきたことで、ゆとりをもった教育活動を計画できている。 (課題) ○教職員数が少なく、一人ひとりが担当する校務分掌の数が多く、更なる業務の効率化を行い、教材研究の時間を確保することが課題である。	教職員一人ひとりが職務遂行能力向上を図る研修と環境の充実	①「学びの指標」アンケート項目因子を意識した授業を実施し、教職員一人ひとりに目標を設定させ、各自で振り返り次に生かす。 ②河合小スタンダード2024版を再検討し、よりよい教職員関係の構築と共通行動による全職員による共通指導を行う。 ③エバンジェリストを中心にICT活用の研修を充実させ、個別最適な学びによる授業を1人1授業実施する。またその研修を授業実践及び担当業務に生かす。	①「学びの指標」アンケートの一人ひとりに合わせた目標が1回目より向上しているか。 ②教職員による評価「共通理解を心がけ、指導している」項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ③教職員による評価「研究授業を通して、指導力が向上した」項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。					

